



ケミヘル

農林水産省登録 第23086号

1/2

平成25年10月9日現在

適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使 用 方 法	銅を含む 農業の総 使用回数	バチルス スプ チリスを含む農業 の総使用回数
ト マ ト ミニトマト	葉かび病	1000～ 2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	—	散布	—	—
	疫病 すすかび病	1000倍						
きゅうり	べと病 褐斑病							
	斑点細菌病	2000倍						
野 菜 類	灰色かび病	1000倍						
	うどんこ病	1000～ 2000倍						
にんじん	黒葉枯病	1000倍						



アグロ カネショウ株式会社

<https://www.agrokanesho.co.jp/>



⚠ 効果・薬害等の注意

- 本剤の有効成分の一つは生菌であるので、散布液調製後はできるだけ速やかに散布する。
- 開封後は密封して保管し、できるだけ早く使い切る。
- 他剤との混用は効果が劣る場合があるので、注意する。
- 予防的効果が主体なので、発病前～発病初期に7日～10日間隔で散布する。
- 低温条件では有効成分の活動が低下し効果が出にくいので、10℃以上が確保できる条件で使用する。
- にんにくに使用する場合は薬害を生じることがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用することが望ましい。
- いんげんまめに使用する場合、幼苗期及び高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさける。
- きゅうり、はくさい、キャベツ、だいこんに対しては薬害を生じやすいので、次の事項に十分注意する。
 - ①幼苗期は特に薬害を生じやすいので、中期以降の散布とする。
 - ②高温時には症状が激しくなるので散布はさける。
 - ③きゅうりの場合は連続散布すると葉の周辺が黄化したり、硬化することがあるので過度の連用はさける。
 - ④はくさい、キャベツ、だいこんに使用する場合は、薬害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用する。なお、収穫間際には汚れを生じるので、留意する。
- アスパラガスに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、必ず炭酸カルシウム水和剤を加用する。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにする。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠ 安全使用上の注意



- 誤飲、誤食などのないよう注意する。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 散布液調製時及び散布の際は保護眼鏡、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさける。
- 夏期高温時の使用をさける。

治療法…該当なし

魚毒性等…使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して冷涼・乾燥した所。

PRTR法 ●火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤等で消火に努める。

